



# 落語の中の浄土真宗 ～新作落語口演と対談～ レポート

- とき 2012年10月22日
- ところ 築地本願寺 ブディストホール

落語口演 (お座参り・お文さん)

対談ゲスト



笑福亭松喬 師匠

釈徹宗 先生

浄土真宗本願寺派総合研究所東京支所とは

浄土真宗本願寺派（西本願寺）の研究機関である、  
京都にある浄土真宗本願寺派総合研究所の支所です。  
首都圏における情報の収集・発信、教学伝道および  
総合研究機能の発揮に資するため、2005（平成17）年  
に開設されました。



発行：2013（平成25）年11月5日

編集者：浄土真宗本願寺派総合研究所東京支所

発行所：浄土真宗本願寺派総合研究所東京支所

〒104-0045

東京都中央区築地3丁目15番1号 築地本願寺内

電話 03-3546-8118 FAX 03-3248-1533

URL：<http://j-soken.jp/>

# 落語の中の浄土真宗

二〇二二（平成二四）年一〇月二日、落語と浄土真宗の関係を  
探る企画「落語の中の浄土真宗〜新作落語口演と対談〜」がブレイ  
ストホール（築地本願寺伝道会館一階）で開かれました。その一報  
を伝えます。

## 笑福亭松喬師匠の落語「お座参り」「お文さん」

はじめに、笑福亭松喬師匠に落語を演じていただきました。一席  
目は「お座参り」という噺です。ストーリーは、両親が法座で外出  
している間に娘が男を自宅に招いたが、両親が予定より早く帰宅し  
たため、両親に気づかれないようにその男を逃がそうとするもので  
す。「法座」と「七条袈裟」が噺の力ギになっています。この噺は「お  
座参り」という題と、古典落語「風呂敷」に似ているところから  
か現在に伝わっていないかたのですが、それを手がかりに釈徹宗氏  
（相愛大学教授、如来寺住職）が書き下ろしたのです。今回は、そ  
の初演だったので。

一席目の「お文さん」は、大阪・船場の商家が舞台です。噺の枕で、  
船場は商人が「本願寺の鐘が聞こえるところで商売がしたい」と東  
西本願寺の別院の近くで店を開いてできた町で、住人のほとんどが真宗門徒で大店が多く（現在もビジネス街です）、伊藤忠（現  
在の伊藤忠商事の前身）では毎朝「正信偈」を称えてから仕事を始めていたという興味深い話がされていました。噺の本題は、あ  
る商家に捨て子があり、店の若旦那夫婦の子として育てることにして乳母を雇ったのですが、その捨て子と乳母、若旦那の間には  
秘密が……。題の「お文さん」は、乳母の名前「文」と、若旦那が仏間で読む「白骨のお文／御文章」をかけています。大阪の商家  
に浄土真宗が根付いていた様子を描いています。

この「お文さん」は、五代目桂文枝師匠（一九三〇〜二〇〇五）が書き残したネタ本にあるのですが長いこと誰も演じておらず、  
それを釈氏がリライティングして復活させたのです。その初演は二〇〇九（平成二一）年四月二日、場所は築地本願寺本堂でした。なお、  
「お文さん」は釈徹宗著『おんげん』（本願寺出版社）に収録されていますので、こちらもご覧頂きたいと思います。  
実は、笑福亭松喬師匠は二〇一一（平成二三）年から肝臓がんの治療中で、当日も点滴を打っての高座でした。それを感じさせ  
ない熱演に、会場は大いに湧きました。

※笑福亭松喬師匠は二〇二三（平成二五）年七月二〇日、六二歳でご逝去されました。謹んで哀悼の意を表します。

## 対談 釈徹宗氏×多田修

落語口演後、釈徹宗氏と多田修（浄土真宗本願寺派総合研究所研究員）の対談です。釈氏は、落語は仏  
教の説法に起源があり、落語には仏教を題材にした噺がいろいろあるなど、落語が仏教と縁の深い芸能で  
あることを述べられました。そこで、多田から釈氏にこれらの噺を復活させるにあたってのエピソードを  
尋ねました。すると、松喬師匠がある落語会で「お文さん」を演じたところ、休憩時間に客席が「あの  
朝には紅顔ありて…を聞いたことがある」「お宅は浄土真宗ですね、うちは真言です」などと仏教の話  
で盛り上がったとのこと。この他にも、古典落語の中には人々の生活に息づく信仰のあり方が表れて  
いて、復活させたい噺がいろいろあると釈氏は思いを語られました。

釈氏の話を受けて多田から、仏教と落語はどちらも、人間はみつともなうことや腹黒いこともするとい  
うことを見せてくれるのもあって、それを「笑ってしまおう」としつつのが落語で、「この井井は結局何  
分を苦しめることになりませう」と教えるようにするのが仏教ではないだろうかとお話しました。

最後に、多田から「仏教ネタの落語が仏教への興味を引き起こし、仏教を知ることによって仏教ネタの落語をもっ  
と楽しめるようになる」という相乗効果を期待したい」と提起したことに対して、釈氏も同意されました。

当日は会場に立ち見が出るほどの盛況でした。この企画が、仏教と落語の縁の深さや、落語に潜む宗教  
性に興味を呼び起こすきっかけとなることを期待しています。

（文…多田修）

